

団体名	神戸市教育委員会	教育支援事業	ジャンル
		事業費総額 2,370 千円	教育・子ども

事業名 **外国にルーツを持つ子供の未来共育プロジェクト**

特徴 **子どもたちがアイデンティティやいじめの問題に対して対抗できる言葉や力をつけるといった視点を持ち、身近な存在である学生がロールモデルとして関わる事業を展開。**

**事業のポイント**

◇ハンディを負う外国にルーツを持つ子供たちが、自分の力を発揮できる学力を身につけ、進学し、日本社会についての正しい知識を身につけ、自立できる環境づくりを行う。

**事業の背景・目的**

◇神戸市では貧困世帯への学習支援プログラムは実施され始めているが、多文化な背景を持つ子供や家庭への対応ができる体制は整えられておらず、言語等の問題で十分な対応ができていないのが現状である。日本で今後も定住していく外国にルーツを持つ子供に、本来持っている力を発揮して、地域を支える一員となってもらえるよう、早い段階でのサポートを実施することが、社会にとっても本人にとっても必要で重要なことである。子供へのサポートと併せ、日本語が不自由で、日本の生活になかなか適応できない、雇用等の問題で経済的に不安定等の問題を抱える保護者に対し、専門機関・団体に繋げていけるようなサポート体制の構築も必要であることから、地域で教育支援実績のある NPO 団体と連携して実施。

**事業の概要**

※特定非営利活動法人 神戸定住外国人支援センター (KFC) に委託

①外国にルーツを持つ子供幼児期支援  
○「こうべプレスクール」の実施  
就学前の子供を対象に、ひらがな、数字、学校で使用する用語の学習  
・実施日：1月9日～2月13日までの土曜日開催(全6回) 2カ所  
＜新長田教室＞参加者：ベトナム2名、タイ1名  
＜三ノ宮教室＞参加者：中国5名、韓国1名、フィリピン1名

②外国にルーツを持つ子供学齢期支援  
○「地域学習教室」の実施  
小・中学生を対象とした、学習の支援を実施。  
実施曜日：火・水・木(新長田教室)、金(三ノ宮教室)  
日本語と母語による日本語・教科指導  
・小学生対象：196回、学習者数延べ1711人、支援者数延べ1195人、ルーツ国：ベトナム、中国、フィリピン、ネパール、バレー、韓国、インド、アフガニスタン、パキスタン、インドネシア等  
・中学生対象：79回、学習者数延べ830人、支援者数延べ596人、ルーツ国：ベトナム、中国、フィリピン、ネパール等

③進学及びキャリア形成支援など  
○ロールモデル事業 8月5日に中学3年生から後輩へのメッセージを語る「夢を語る会」を開催。  
○夏休み工作教室 8月20日に夏休み工作教室で、紙粘土でお弁当や指人形を作成。参加者：20名  
○年末お楽しみ会 12月24日に甲南女子大学生が中心となり、年末お楽しみ会「ホットケーキコンテスト」を実施。参加者：37名  
○「子供・保護者相談室」の実施 相談件数：125件



地域学習教室



こうべプレスクール

## 事業実施における工夫点・事業の成果等

「外国にルーツを持つ子供幼児期支援」に関しては、三ノ宮教室は特に渡日間もない子供が多く、簡単な日本語の会話やひらがなの習得などについて目に見える効果があった。就学前の子供が対象であったが、みな1時間半座って学習できる子供ばかりで、思ったよりも進度が速かった。

「外国にルーツを持つ子供学齢期支援」に関しては、非常に多くの子供が利用し、中国人・ベトナム人の留学生による母語での学習支援も実施することにより、渡日して間もない子供たちが非常に安心して学習できた。

また、一緒に学習する身近な先輩である中学3年生より、夢やこれまでの反省を語ってもらうロールモデル事業の実施等により、学習意欲を向上させることもできた。他にも、日本語ができない保護者でもサポートできることを提案し、例えば時計の読み方など、家庭での学習サポートの協力も得るなど、家庭と連携して子供の学習支援を行うこともできた。

相談に関しては、非常にたくさんの様々なケースが持ち込まれた。中でも経済的な問題など簡単には解決できない問題もあり、KFCの職員が区役所などに同行して協力を求め、解決を図った。また神戸市の支援制度には当てはまらず、言語サポーターの支援を受けられない子供の相談もあり、KFCがきめ細やかに動いたことで、学校へボランティアの支援者を派遣することができ、子供が安心して通うことができるようになった。そして、外国人当事者からの相談だけではなく、関わっている学校教員からの相談も多数受け、KFCと学校との連携を図ることができた。

NPO団体との連携体制の構築については時々訪問し、活動見学や情報交換を密に行うことで、風通しのいい関係づくりを心がけている。また、6月にはNPO団体とNPO団体に通級する子どもが通う学校との情報交換会を実施し、子どもの生活、学習状況等について情報を共有する場を設け、NPO団体と学校の連携を図った。



夢を語る会

## 今後の課題・将来に向けての展望等

子供たちが学習する中で、アイデンティティの悩みやいじめの相談など、KFCの職員やボランティアが子供たちの悩みを聞くことがよくあったとの報告を受けた。そういった悩みを聞くだけでなく、子供たちが正当に対抗できる言葉や力をつけられるようなプログラムを検討していきたいと考えている。また、週2回程度の学習では難しいところもあるが、CAN DOなどを活用して、何ができて何ができていないのかを把握し、学習支援に取り組めるような仕組みも導入するとともに、支援者同士の交流や事例発表会などによって、支援者同士の意見交換、ピアカウンセリングのような場も少しずつ増やしていきたいと考えている。

神戸市教育委員会としては、今回のプロジェクトを今後も継続していくとともに、今回のKFCとの連携の知見を活かして、他のNPO団体ともしっかりと連携を図っていけるようにしたい。また、増え続ける新渡日の児童生徒の日本語指導のために、このプロジェクト以外にも、学校派遣のボランティア制度や放課後日本語教室、教職員への日本語指導研修、多文化共生教育研修を充実させていきたい。



年末お楽しみ会

## 事業担当者のふりかえり

- ⇒ 先輩となる中学3年生が後輩のために自分の夢や経験について語る企画は、一緒に学習する生徒たちにとって、自分の夢を考えたり、学習を見直すとても良い機会となった。一方、子どもたちから聞こえてくる、ルーツに関する否定的な発言や悩み、いじめに関する話に支援者側も対応する力を身につける必要性を感じた。まずは支援者側に子どもと向き合う力をもってもらい、子どもにも正当に対応する力を持ってもらえるようにしたいと考えている。